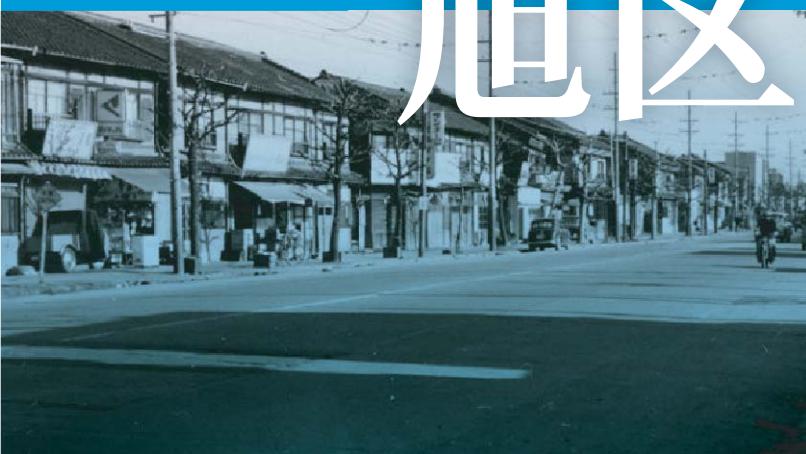


History of Asahi Ward



昭和32年頃の国道1号(写真:中村英祐)

区民による地域史づくり・人づくり

平成19年3月

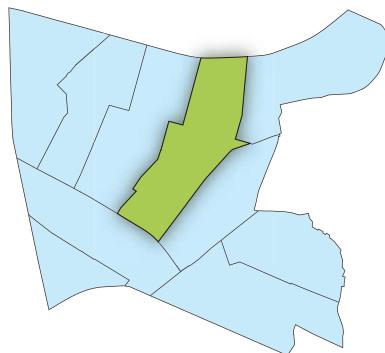
大阪市旭区役所

# 旭区 地域史

大阪市旭区地域史づくりワークショップ

おおみや

大宮 編



# 旭区 地域史

区民による地域史づくり・人づくり 大阪市旭区地域史づくりワークショップ

平成18年度実施地域 大宮・古市



■第2回(平成18年10月19日)大宮班



■第3回(平成18年11月20日)古市班



■第4回(平成19年1月15日)大宮班



■第5回(平成19年2月5日)



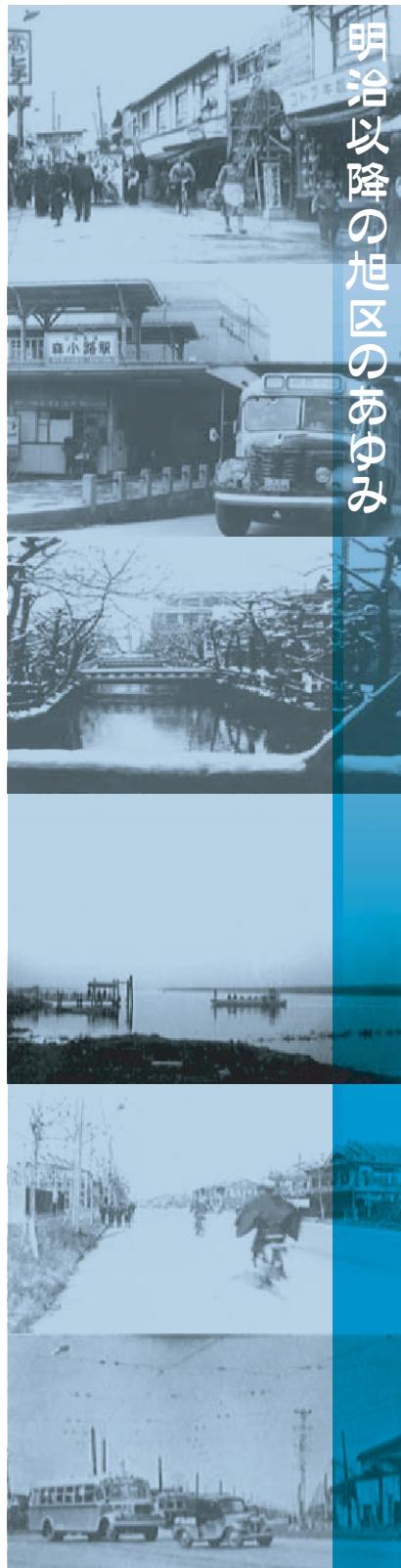
■第6回(平成19年2月27日)



■第7回(平成19年3月26日)古市班



旭区でそれはいつから始まったのか?	3
地域の移り変わり	4
大宮班のテーマ	5
大宮班の活動記録	6
南島	7
井路川	9
大宮神社	11
西形家・善立寺	12
市電	13
ワンド	14



明治		
4年	(1871)	廃藩置県（大阪府を置く） 旭区域は摂津県東成郡に属す
6年	(1873)	千林小学校創立
8年	(1875)	淀川修築工事着工 水制（ケレップ）工事が始まる 中村（現城北）小学校創立
18年	(1885)	淀川左岸決壊し、大洪水が起こる。翌年にかけてコレラが大流行
22年	(1889)	市制町村制施行（大阪市発足） 旭区域は東成郡のまま 清水、古市、城北村がこの頃成立
29年	(1896)	淀川大洪水 翌年から淀川改良工事が始まる
43年	(1910)	京阪電車開通（天溝橋～五條間） 蒲生・野江・森小路駅開設
45年	(1912)	この頃、千林商店街ができる
6年	(1917)	城北村に初の上水道給水
7年	(1918)	米騒動が起こる
11年	(1922)	古市・清水小学校創立 関西工学専修学校（現大阪工業大学）創設
13年	(1924)	古市耕地整理組合設立 城北村で共同浴場開設
14年	(1925)	大阪市第二次市域拡張 旭区域が市域に編入され東成区に
15年	(1926)	城北土地区画整理組合設立
2年	(1927)	京阪国道（現国道1号）の舗装工事始まる 京阪電鉄にロマンスカー登場
3年	(1928)	片町～森小路、東野田6丁目～森小路1丁目間で区内初の市バス運行
4年	(1929)	区画整理事業による町名変更が行われる（昭和20年まで） 森小路、北船場、大宮で土地区画整理組合設立
5年	(1930)	榎並之荘、清水で土地区画整理組合設立
6年	(1931)	市電都島～守口間開通 森小路遺跡が発見される
7年	(1932)	旭区が誕生（東成区から分区） 新森中央公園開園
8年	(1933)	京阪国道（現国道1号）開通 京阪電鉄蒲生～守口間高架複々線工事完成
9年	(1934)	城北公園開園
15年	(1940)	城北運河完成
18年	(1943)	南半分が城東区、一部が都島区となり、現在の旭区となる 旭公園開園
20年	(1945)	大阪空襲（3月12日）・終戦 戦後～昭和26年頃まで城北にバス住宅
24年	(1949)	旭区役所庁舎再建（火災焼失のため）
28年	(1953)	台風13号による大洪水が起こる
32年	(1957)	今里～守口間でトロリーバス運転開始 ダイエー1号店が千林にオープン
38年	(1963)	太子橋中公園開園
39年	(1964)	城北公園に菖蒲園開園
43年	(1968)	阪神高速道路北浜～森小路間開通
44年	(1969)	市電全廃
45年	(1970)	豊里大橋完成、平田の渡し廃止 旭区役所新庁舎完成 万国博覧会開催
46年	(1971)	阪神高速道路守口線開通 旭区全域が下水処理区域になる
48年	(1973)	城北運河魚つり場オープン
49年	(1974)	城北運河歩行者専用道路完成 大阪市分区により26区に
50年	(1975)	旭図書館、区老人福祉センター開設
52年	(1977)	地下鉄谷町線都島～守口間開通 千林大宮、太子橋今市駅設置
58年	(1983)	淀川大堰竣工
平成		
元年	(1989)	菅原城北大橋開通 大阪市合区により24区に
2年	(1990)	国際花と緑の博覧会開催
6年	(1994)	旭スポーツセンター開設
12年	(2000)	旭区民センター・芸術創造館・旭図書館完成
14年	(2002)	旭屋内プール、城北市民学習センター開設

※「ぶらり探訪 旭の見どころ・知りどころ」より抜粋

# 旭区でそれはいつから始まったのか?

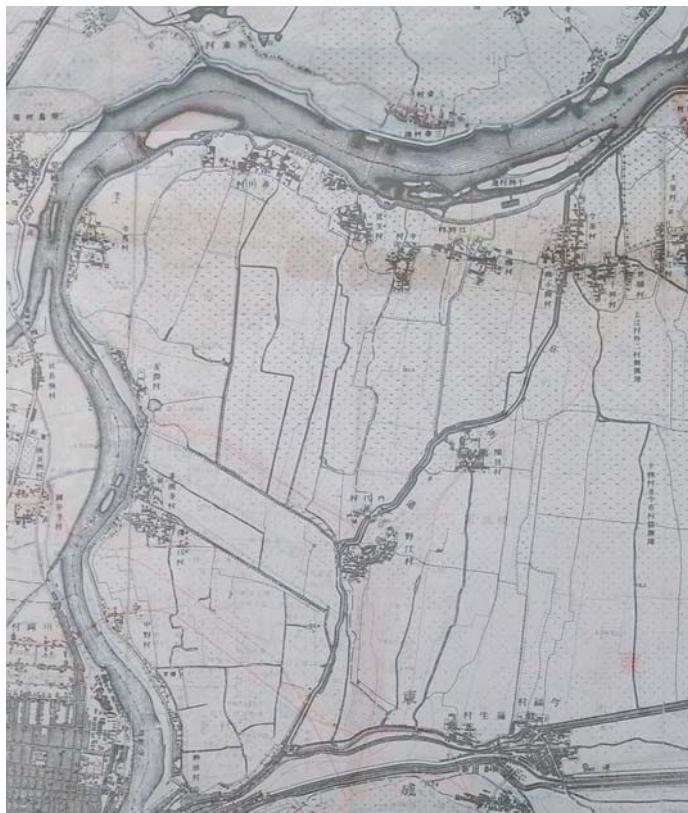
資料提供：小井戸茂

項目	年代	摘要
電気	明治43年	京阪電鉄毛馬火力発電所より供給開始
水道	大正11年	城北地区一部で送水開始、大正13年に古市・清水地区まで普及
ガス	昭和3年	大阪ガスが旭区へ供給開始、昭和6年に区内全域に供給
私鉄	明治43年	京阪電車開通、森小路駅開設。昭和6年に新線(B線のみ)へ移転
市電	昭和4年	都島本通～今市間開通、昭和6年に今市～守口間開通
市バス	昭和3年	森小路1丁目～片町間運行開始、昭和6年に森小路8丁目まで延長
トロリーバス	昭和32年	守口～今里間運行開始、昭和45年に廃止
地下鉄	昭和52年	谷町線都島～守口間開通
公園	昭和7年	森小路中央公園開園、次いで昭和9年に城北公園開園
郵便局	大正6年	特定局森小路郵便局開局（ただし集配は本局鯨江郵便局）
電報	昭和8年	森小路郵便局で取扱い開始
電話	明治35年	今福郵便局電話分室で交換事務開始
警察署	昭和16年	旭警察署開署、以前は今福、網島、守口3署の管轄
消防署	昭和23年	旭消防署開署、以前は今福消防署の管轄
区役所	大正14年	東成区役所出張所を千林に設置、昭和7年に旭区役所新設
保健所	昭和16年	森小路保健所開所（大宮2）、昭和38年に新庁舎へ移転
税務署	昭和7年	旭税務署開署（野江中3）、昭和41年に新築移転
総合病院	昭和7年	区内にはなし。最寄り大阪高等女子医学専門学校付属病院開院
市民病院	昭和28年	市立城北市民病院開院、平成5年に市立総合医療センターに併合
大学	昭和24年	摂南工業大学発足（半年後に大阪工業大学と改称）
実業高校	大正12年	京阪商業仮開校、公立では昭和12年に第六職工学校開校
普通高校	昭和28年	府立旭高等学校開校（設立当初は府立第48高等学校）
新制中学校	昭和22年	市立旭第一中学校開校、昭和24年に旭陽中学校と改称
小学校	明治6年	組合立千林小学校創立、大正11年に古市・清水両小学校に分離
養護学校	昭和15年	市立思齊学校開校、昭和32年に思齊養護学校と改称
幼稚園	昭和13年	私立新森幼稚園開園、公立では昭和52年に市立旭東幼稚園開設
保育所	昭和8年	市立生江保育所開所
図書館	昭和50年	旭図書館開館、平成12年に現在地に移転
映画館	昭和12年	江南キネマ開館
大相撲	昭和12年	大阪国技館開館（関目は当時旭区）、昭和16年に中止
水都祭	昭和38年	旭区淀川河畔で開催、昭和49年まで。以後天神祭奉賛行事に併合
ラジオ	大正14年	(社)大阪中央放送局放送開始、昭和6年頃から受信機普及
テレビ	昭和28年	NHK本放送開始
地方銀行	大正9年	加島銀行森小路出張所開店
都市銀行	昭和8年	三和銀行森小路出張所開設、昭和13年に支店に昇格
近代工場	明治30年	奥村織布工場開業、旭区の工業の始まり
市場	大正9年	古市村営公設市場開場（後の森小路公設市場）
スーパー	昭和27年	ニチイ千林店発足（赤のれんが改組）、後のスーパーへ
百貨店	昭和6年	高島屋森小路店開店、のち斜め向かいへ移転
近代的国道	昭和8年	国道2号（別名京阪国道）開通 ※現在は国道1号
高速道路	昭和43年	阪神高速森小路線開通
運河	昭和15年	城北運河完成（昭和12年に古市橋開通）
渡し船	明治37年	平田の渡し（豊里村営）。延宝4年(1676)以降個人経営
市会議員	昭和4年	現旭区出身の第1号 寺西圓治郎氏
水洗便所	昭和47年	今福下水処理場完成で実現
町会隣組	昭和15年	昭和22年に解散、現行の制度は昭和50年に旭区地域振興会発足から
現住居表示	昭和46年	町は削除、丁目・番・号制に改正…新地名登場(高殿、新森、清水、太子橋)



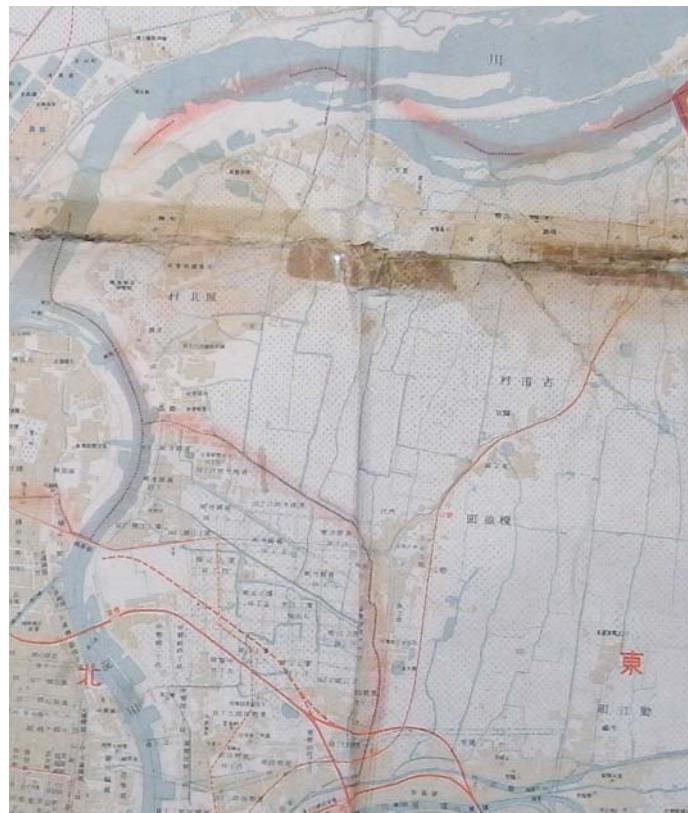
# 地域の移り変わり

協力：大阪市史編纂所



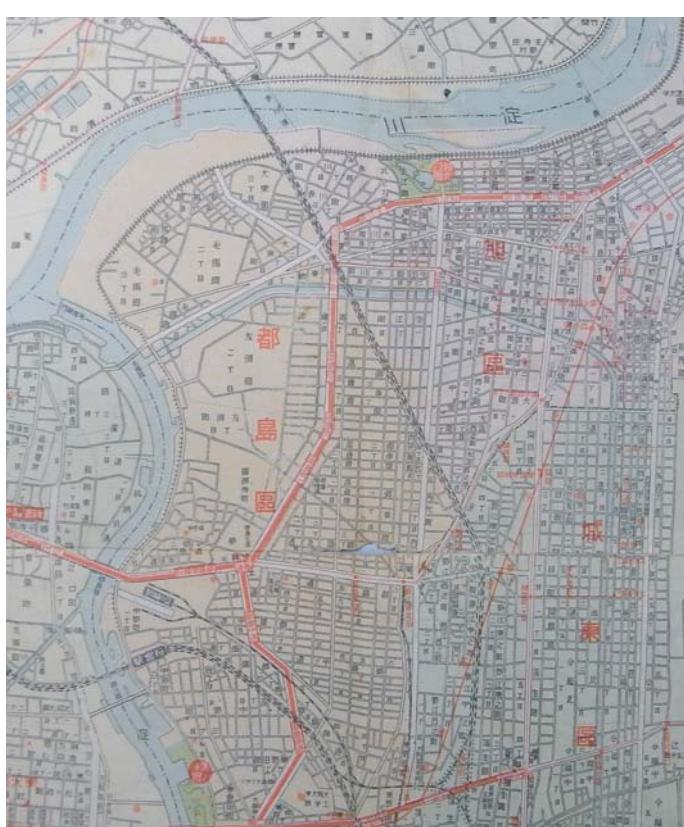
■明治20年(1887年)の旭区周辺

1887



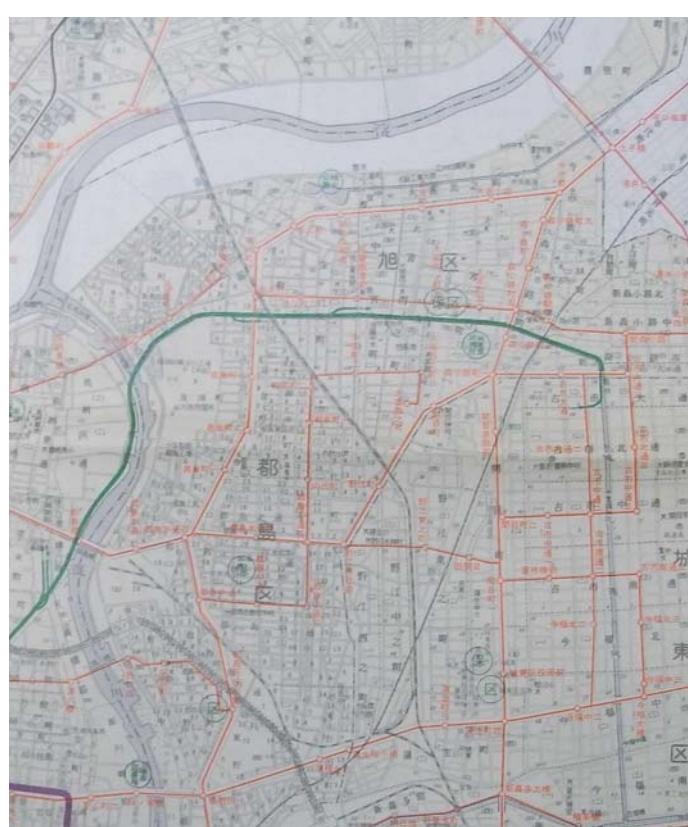
■大正14年(1925年)の旭区周辺

1925



■昭和29年(1954年)の旭区周辺

1954



■昭和45年(1970年)の旭区周辺

1970

# 大宮

Omiya

大阪市旭区大宮  
1丁目～5丁目

～町名の由来～

町名は、南島・森小路・今市・千林・貝脇・江野・中宮・生江・友渕。  
内代の各町を氏地とした大宮八幡宮の社名に由来する。

◆◆◆ 大宮班のテーマ ◆◆◆



# ◆◆◆大宮班の活動記録◆◆◆

## ワークショップ開催日 議論のポイント

第1回 平成18年9月28日	テーマ設定をどうすべきか
第2回 平成18年10月19日	善立寺ヒアリング
第3回 平成18年11月20日	地形の移り変わり
第4回 平成19年1月15日	見て分かる地域史づくり
第5回 平成19年2月5日	キーワードの再検討
第6回 平成19年2月27日	地域史の最終構成
第7回 平成19年3月26日	掲載ボリュームの設定



■まち歩きの様子(第4回)



■善立寺ヒアリングの様子(第2回)

## 「参加者の声」



■ワークショップ初日

■旭図書館の資料や旭区史等を参考にしながら、南島地区(現 大宮町)の江戸、明治期のレポートを作成しました。その結果、当地は江戸、明治期に淀川の恵みを受け、四方八方に通じた水路が形成されるとともに、肥沃な土地であったことから、恵まれた農地地方であったことが分かりました。調べた内容と史実が一致しているかについては、未確認の部分もありますが、この地域史を見て旭区の歴史に興味を持っていただければ幸いです。

■地域史づくりの活動とだぶらせながら、仲間や家族と自分の住んでいる所の昔をハイキングのようにたどっていくことは、健康に良く、楽しいひと時です。こうした活動を通じて、地域の人たちとコミュニケーションを深めていきたいものです。今回のワークショップでは、身近なところを歩いて、とても有意義でした。

■大宮地区の歴史、水路を勉強するにつれて、昔から疑問に思っていた「八百八橋というけれど、川も橋もそんなにあるのか?」という謎が解けました。我が家横に川が流れていた!細い道も川だった!「大阪人」という本の中では「淀川は豊かな恩恵と、ときに厳しい試練を与えてきた」と語られており、多くの水路によって農業も発達し、商業も栄えました。又、洪水によって人々は苦しめられたのでしょう。毎日生活していく中で、少し目を向けるだけで、多くのことが判つてくるんですね。近い将来、皆さんがあげられた事を映像として作られたら、大変面白く、わかりやすく、興味を持つていただけると思います。私は、100年後に今を含めた水路がどのようにになっているか知りたいと思います。

■この地域史づくり・ワークショップに参加するまでは、旭区という名が「日の出る東部」という意味があると、三十年余り暮らして知りませんでした。そして、大宮の辺りが「南島村」と呼ばれ、水路(井路)も発達していて、美しい田園風景を見に来る人があったとか、こんなワンシーンを想像するだけでも楽しくなります。ご近所づきあいも少くなりつつある昨今、この様な催しがあることをPRして、人の輪が広がれば良いと思います。



# 南島 みなみしま

淀川と旧淀川の分流点東方、淀川左岸に位置する。地名は、当地付近の淀川内に1つの洲があり、南島と呼ばれていたことによる。中世、当地には畠山氏の城砦があったと伝えられる（「角川日本地名大辞典27大阪府」より）。



## [近世] 南島村

江戸期～明治22年（1889年）の村名。摂津国東成郡のうち。摂津高改帳によれば元和2年（1616年）頃は大坂藩松平領と見え、同5年（1619年）幕府領、天保9年（1838年）から一部が大坂城代役知となる。村高は、摂津高改帳で681石余、摂津草高帳にも同高、「天保郷帳」「旧高旧領」とともに647余。神社に大宮八幡宮（現大宮神社）がある。「五畿内志」には南島神社と見える。江戸期の同社氏子圏は当村のほか森小路村・江野村・内代村。また同社は大坂城の鬼門に位置することから、毎年1・5・9に城代または名代が参拝して玉串を納めたという。寺院に、天文23年（1554年）周道の開基になる浄土真宗本派善立寺がある。明治2年（1869年）に大阪府所属。同9年の人口321。同22年（1889年）古市村の大字となる。

## [近代] 南島

明治22年（1889年）～大正14年（1925年）の古市村の大字名。明治24年（1891年）の戸数58、男190人・女175人、幅員は東西2町20間・南北1町50間（微発物件一覧表）。大正14年（1925年）東成区南島となる。

## [近代] 南島町

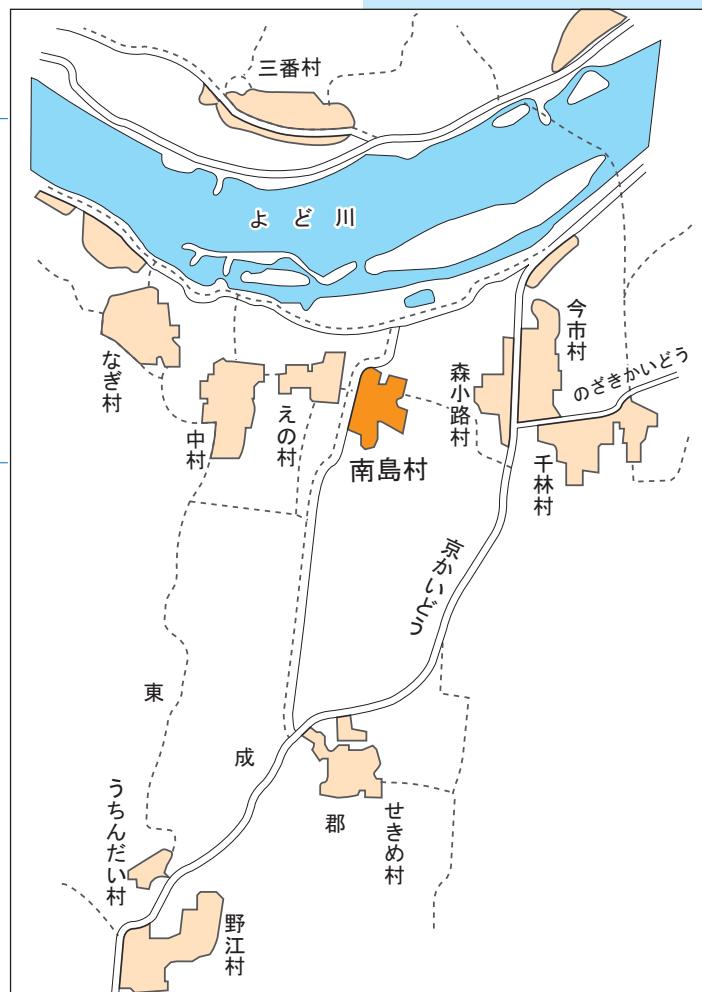
大正14年（1925年）～昭和25年（1950年）の町名。はじめ東成区、昭和7年（1932年）からは旭区の町名。昭和4年（1929年）～25年（1950年）に関目町1～4丁目・森小路町1～8丁目・古市北通1～5丁目・古市中通1～5丁目・古市南通1～5丁目・大宮西之町1～8丁目・大宮町1～10丁目・大宮北之町1～2丁目となる。

■大宮2丁目の電柱

「ミナミジマ」という地名の名残が、大宮2丁目にある電柱のプレートから見ることができる。

■旭区の古地図

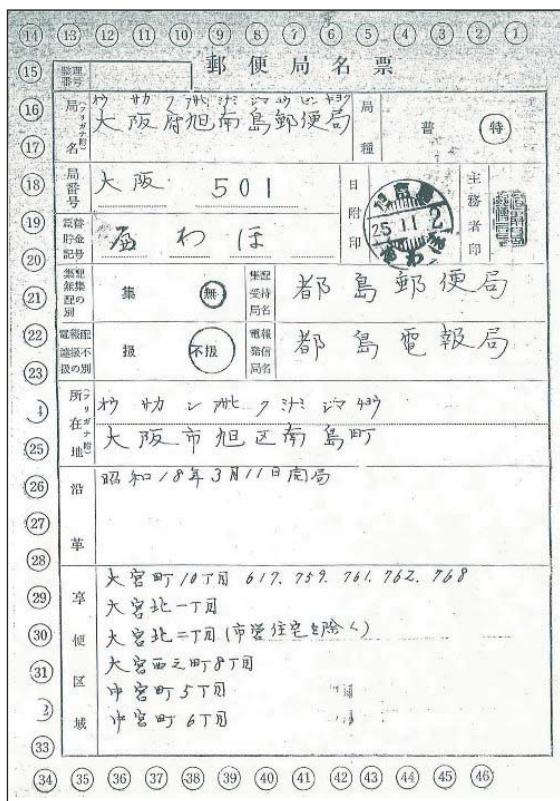
「大宮小地域資料 大阪市立大宮小学校創立70周年記念」CD-ROMを参照して作成



## 南島の産業

南島村は元和6年(1620年)、江戸幕府直轄地となり、あたりは農村地帯であった。代官所は、大坂鈴木町、谷町の2ヶ所に設けられていた。村々では、庄屋、年寄、百姓代などの役人、村方三役(むらかたさんやく)が置かれていた。当時の村には、淀川水系の用水路、交通水路が村といわば耕地といわば、四通八達(しつうはつたつ)していた。この井路といわれる水路を「三まいた(三枚板)」という、長さ約4,5メートル、幅1メートルの小回り舟を自在に操って、農民たちは農作物や肥料を運搬し、村内自由に往来していた。年貢米も庄屋の監督のもとに、村の蔵に納められた後、三まいた舟で大坂代官所に納められた。南島村では六百六十二石三斗四升四合であった。

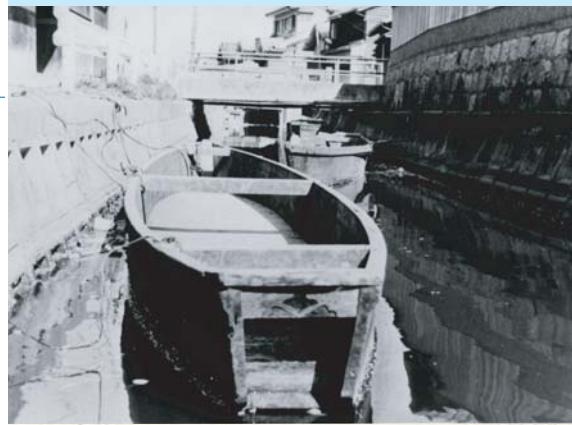
(参考)千林村は八百八十二石七斗五升八合、今市村は八百四十四石八斗三升、森小路村は五百七十二石四斗一升五合明治中期までは、江戸時代と変わらない農業生産中心にした生活が続いた。低湿で湿田が多く、米作を主とし、野菜は大消費地に近いため、作付けは全耕地の三割を占め盛んであった。毛馬キュウリ、大根、マクワウリ、レンコン等で、この他は菜種や綿実、果物は明治後期に果実園ができ、ナシ(長十郎など)、ブドウ(甲州物)が作られていた。南島という地名時代の人口は、354名(旭図書館資料より)。



■郵便局名票

郵便局名票には、大阪府旭南島郵便局と記述されている。

(現在の中宮四丁目にある旭中宮郵便局)



■三まいた(三枚板)  
上)「城東区50年のあゆみ」より  
下)旭区史より



■淀川付近ではナシ畑やブドウ畑が広がっていた  
(写真:中村英祐)



■柳通り一帯にはネギ畑が広がっていた  
(写真:中村英祐)

# 井路川 いじがわ

江戸時代以来、新田のいたるところで水利や運搬のため井路川という水路が掘られ、昭和30年頃までは豊かな農産物を積んだ小船が行き交っていました。この井路川は、新田の動脈でもありまた象徴でもあって、近世大阪発展のため大きな役割を果たしてきました。(住之江区ホームページより)



## ■井路川ルート

大正14年の地図と現在の地図を重ね合わせ、井路川のルートを確認しました。

(地図作製：中村英祐／資料：大阪市史編纂所)

## 井路川のルートについて

幹線水路、井路川は淀川を水源として鯰江川へ流れ込み、寝屋川を経由し旧淀川へ流れしていました。

(仮称)内代井路川は、城東貨物線の交差点より斜め東側に北上し旭陽中学校を横切って江野と繋がっていました。

(仮称)大宮井路川は、旭公園の東側を南に流れ七曲がりの西側で合流していました。

### なまずえがわ ～鯰江川とは 大阪市建設局「河籍簿」参照

鯰江川は北河内郡の一部ならびに旧権並荘の排水を集め、東は今福五ヶ門より西は北区東野田に至り寝屋川に合流していました。不法投棄と水質の悪化に伴い、環境衛生上の面で放置できなくなつたため、昭和47年(1972年)に埋め立てられ、跡地は道路として利用されています。



■高瀬川の現在



■(仮称)今市井路川の現在



■(仮称)清水井路川の現在

## 井路川・現在の様子

井路川があった場所の現在の様子を見ると、曲がりくねっていることが特徴としてあげられます。

また、井路川が水運として利用されていた当時は、井路川に面して家の玄関が設けられていたと思われますが、その後排水路としての利用となり、環境悪化の問題などから、家屋の玄関は井路川に背を向けるようになったと考えられます。

井路川跡を歩いてみると、現在は道路となっている川跡に背を向けた家を所々に見ることができます。

城北川周辺では、行き止まりの道が多く見られます。現地を調べた結果、城北川に流れ込んでいた井路川が道路として埋め立てられ、行き止まりとなっているのではないかと推測しています。



■城北川につながる行き止まりの道



■井路川暗渠後の様子  
(現在の森小路2丁目付近／昭和30年頃)

(本頁の写真全て：中村英祐)

# 大宮神社 おおみやじんじゃ



(写真:中村英祐)

後鳥羽天皇の文治元年(1185年)に創建された古社で、祭神は応神天皇、神功皇后、姫大神、大国主命、事代主命、須佐男命、菅原道真の諸神である。本殿、拝殿、遙拝所、絵馬堂などを整えた立派な神社で、古地図によると現在の神域よりはるかに広く、一の鳥居は大宮1丁目(現在高殿4丁目)あたりにあった。

ここは、京街道の「七曲がり」と呼ばれるところで、豊臣秀吉が大坂城築城にあたって京都へと通じる京街道を整備する際、大坂城の防衛線の一部としてこの付近を重視し、敵兵の数や様子を察知し、その進軍を少しでも遅らせるために、わざと街道を蛇行させたといわれている。

源義経が平家追討のため、この地を通りかかったところ靈光があってここに神祠を建てた。以来、戦国武将の尊崇を集め、とくに豊臣秀吉は大坂城築城の際、この地が鬼門に当たることから同神社を鬼門守護神として神殿や末社を再建し、祈願所とした。明治5年(1872年)、村社になり八幡大神宮と改称、さらに同40年(1907年)には古市神社となつたが、同45年(1912年)に大宮神社と改められて現在に至る。

橋の親柱には、江戸時代の年号と干支「弘化三丙午三月吉日」(※)が記されている。  
※弘化3年(1846年)

## ■ 神社鳥居

鳥居には、江戸時代の年号と干支「寛保二壬戌年三月吉日」(※)が記されている。※寛保2年(1742年)



■ 京街道の「七曲がり」



■ 境内にある橋は、昔井路が通っていた事を物語っている。

■ 境内にある橋の親柱  
(上の写真3点:中村英祐)

# 西形家

にしがたけ

大宮商店街に面した西形家は、代々庄屋を務めたとみられる旧家で、屋根には茅葺きだった頃の名残をとどめる。大宮神社境内にある石造の橋には、庄屋として西形家の文字が見られる。また、橋の親柱には、江戸時代の年号と干支「弘化三丙午三月吉日」(※)が記されている。

※弘化3年(1846年)



庄家 西形家

(写真:中村英祐)



■大宮神社境内にある橋(写真:中村英祐)

橋には「庄屋 西形」の文字が見られる。



■西形家の石垣(ひなだ)

石段、壁づたいの石垣（ひなだ）は、かつて水路があったことを物語っています。

# 善立寺

ぜんりゅうじ



天文23年(1544年)室町時代、十代證如上人(しょうによしょうにん)の直弟子の周道と村人有志により浄土真宗本願寺派末寺として創建された。明治18年(1885年)、台風強雨により淀川が枚方付近で決壊し破滅的被害をもたらした「淀川大洪水」では、善立寺も天井一尺まで冠水被害を受けて過去帳等の貴重な記録を失った。当時の貴重品として、厨子(ずし)に入っている念持仏(ねんじぶつ)は、扉を閉めると枕に似ていることから、枕觀音とも言われている。経本(経典)は、安政時代に木版掘りで作られた。※安政年間／安政元年(1854年)～安政6年(1859年)

昭和6年(1931年)に再建し現在に至る。



■写真左)念持仏(ねんじぶつ)



■写真右)経本

# 市電 しでん



■市電（「旭区史」より）

大阪市内を中心に乗物は、人力車、巡航船、市電、乗合自動車（バス）、地下鉄の順で登場した。市電が初めて市内を走ったのは明治36年（1903年）で、西区花園橋から築港まで、料金は4銭（一区1銭）であった。また同年、新世界で勧業博覧会が開かれたため、梅田から会場の天王寺までバスが運行された。地下鉄は1933年（昭和8年）に梅田・心斎橋間で開通し、以後どんどん路線を延ばし、今では市内の交通機関の主役になっている。



■遠方に市電の姿が見える城北筋の風景  
(昭和32年(1957年)頃)  
上)現在の中宮三丁目辺りから北を見る  
下)現在の城北公園付近から南を見る  
(写真2点とも:中村英祐)



■昭和32年(1957年)頃の国道1号  
(写真:中村英祐)

## ～市電よもやま話～

旭区の赤川の地主に集まって貰いました。三丁目辺りの地主はこの辺りで区画整理しても家は建たないではないか。当時、市電は片町から都島本通で天六に曲がっていた。赤川三丁目から都島本通までは3km以上ある。京阪の各駅もそれ以上に遠く故に区画整理しても何もならないと云う。そこで市電が通れる広い道を造ることになり、組合が自発的に市電が通れる道を造ることにした。そこで一計、車庫を出来るだけ遠くに造ることにし、守口地区区画整理組合の中央に車庫の敷地を大阪市に寄贈することになった。

城北、大宮、榎並之荘、董の荘の組合長は寺西圓次郎氏。（「大阪建設史夜話」より）

## 大宮土地区画整理竣工記念

大正14年（1925年）に西成郡・東成郡が大阪市に編入される前の両郡、即ち大阪市に隣接する両郡の町村は、急激な都市化が進んでいた。そうした中で、健全な都市開発を目指して、大正末期から昭和10年（1935年）代にかけて土地の区画整理が多数行われた。旭区内でも10を超える組合が作られた。その一つ、大宮土地区画整理組合は、昭和4年（1929年）12月に設立され、工事期間は昭和6年（1931年）3月から16年（1941年）5月の10年間で、約5.5万坪の区画整理を行い、昭和21年（1946年）4月1日同組合を解散している。

# ワンド わんど



明治時代、船が安全に往来できるように「ケレップ水制」(水の流れを制御するための構造物)という工事が行われた。しかし、時代とともに船の利用が減り、整備されなくなった水制に土砂が堆積し、本流と隔離され、小さな池が連なって「ワンド」という独特的の地形ができた。自然に根付いたヨシなどに囲まれた、生物にとっては貴重な憩いの場となっている。また、淀川水系ではすでに絶滅したと思われていたイタセンパラが発見され、国の天然記念物に指定された。



■ワンドと菅原城北大橋



■イタンセンパラ

平成18年12月に、ワンドで生態系調査が行われましたが、イタセンパラの姿は無く、ブルーギルが多く見られました。



■淀川のワンドとその周辺

## ～昔の淀川では

- 大宮小学校にはプールが無かったので、「天然プール」と呼んでいた淀川の水泳場に友達と泳ぎに行きました。
- タニシを漁師が網でくつっている風景を覚えています。
- タニシの他に、コイ、フナ、タナゴ、シマドジョウ、シジミなどをバケツ一杯に捕ることができました。





# 旭区 地域史

区民による地域史づくり・八づくり 大阪市旭区地域史づくりワークショップ

【大宮編】

平成19年3月

- 発行／大阪市旭区役所区民企画室
- 協力／総合調査設計株式会社

この冊子は、区民の方が中心となって現地確認、聞きとりなどの調査、情報収集をして作成しました。



平成19年3月



本内容に関するお問い合わせは  
大阪市旭区役所区民企画室まで  
tel06(6957)9734

